

す。これは患者さんに入院中のスケジュールを細かく解説しながら、それぞれの段階で期待・予測される結果を記した表を作成するシステムです。もともとは米国やカナダで取り入れられているクリティカルパスですが、年に1～2回、海外にある最先端の医療機関を視察することによって常に新しい医療サービスを取り入れることに努力をおしまない岡山中央病院の先生方は、このシステムを導入することにしたそうです。「医師や看護師向けのもの、理解しやすいようにイラストの入った患者さん向けのもの2通り作成しています。医療スタッフ同士と患者さんが同じ目的のために情報を共有し、患者さんが治療中、そして退院後の自分を具体的にイメージできるようにするうえで非常に重要な意味を持っています」と谷合先生。

このシステムは患者さんの病気に対する自覚を促し、入院期間を短縮するのに有効だそうです。では、なぜ入院期間の短縮が重要視されるのでしょうか。「透析の導入入院を例にあげま



谷合先生、服部SV、江木GLと透析に関わるスタッフと先生方

すと、高齢者の方などは、できるだけ早くご自宅の生活に戻してあげることがその後のQOL向上のためには大切です。また、お勤めの方は今の忙しい社会情勢を鑑みて、スムーズな社会復帰を望まれています。そして入院期間をできるだけ短くするためには、患者さんがご自分の治療に関して、しっかり納得し、理解していただくことが必要となります。その一助として私たちはクリニカルナビを導入しましたが、それだけでなく常に現在の対処方法に問題点がないかどうか皆で検討し合い、システムを改善し続けていけるよう努力していきたいと思っています」「腎臓病教室に参加していただく時期から始まって、病気の経過とともに透析を始めるようになるまで、身体や生活にどのような変化が訪れるのか。それらを患者さんに十分に理解してもらうためには医師や看護師たちとの早い段階からの相談が必要です。

準備を十分に行うことができれば、患者さんがご自分の生活の一部として透析を受け入れ、前向きに向き合うことができます。現在、入院が短期で済むCAPD患者さんの段階的なカテーテル挿入手術を取り入れることなど、もっと患者さんが従来の日常生活に戻りやすい導入方法も検討しています。そのために私自身は自分の知識が古かったり、もしくは間違いがあったりしないように新しい医療情報を把握して、スタッフや患者さんにお伝えしていきたいと思います」

* * * * *

明るいお話のしかたで優しい印象の谷合先生、患者さんの信頼も絶大だそうです。しかし患者さんのために、よりよい医療を提供できるよう、また信頼に値するプロとして活躍できるように、ご自分を含めスタッフにはいつも向上心を持ち続けていくよう指導するなど厳しい一面も持っていらっしゃるようです。